

地域にアプローチする北中に

十九日（金）の朝刊に、中学生に関わる二つの記事が載っていました。どちらも、中学生が主体的に地域に関わっていることを紹介するものでした。

一つは、中津川市の苗木中学校と落合中学校の生徒たちが市内の史跡や特産品などを題材に描いたポスター展を開催したというものです。

両校では地元について学び伝える活動に毎年取り組んでいるとのこと。そして、今年度は新型コロナで遠出が難しい中、市民らに身近な名所や名物を再認識してもらおうという思いから開催されたようです。つまり、学校が地域に積極的に関わろうとしています。これも一つの地域貢献の形と言えますね。

二つ目は、瑞浪南中学校です。南中では、稲津地区には稲津町の観光地や行事を紹介する観光マップを、陶地区には陶町に住む外国人向けにゴミの出し方を説明するパンフレットをそれぞれ制作したそうです。

興味深いのは、地域に何かできることはないかと、生徒が主体的に動いている点です。陶町でフィリピン人の住民が、閲覧板の内容がわからず困っている話を聞いたのが制作のきっかけとのこと。観光マップは生徒が公民館関係者に聞き取りを行って地域に必要な情報を盛り込んだ地図を作ったとのこと。自分たちで地域の問題に気付き、自分たちで方策を考えて実行する積極的な地域貢献と言えるでしょう。

気付いていますか、今年度北中でも学校ぐるみで積極的な地域貢献をしていることを。そうです！「大杉支援」です。普段から取り組んでいるアルミ缶回収の目的を明確にし、生徒のみなさんから地域に関わろうとしていますね。北中では、一年を通して地域にアプローチし続けていると言ってよいでしょう。

今年度の取り組みを、来年度はぜひ発展させてほしいと私は思っています。ずっと大杉支援に取り組みなさいということではありませんよ。「今地域がどういう状況で、どんな課題があるのか」「そのために、中学生の自分たちには何ができるか」を自分たちで考え、具体的に実行に移すのです。来年度も「大杉支援」が必要なら改めて関わり方を考えればよいのです。それに、地区は大湫地区以外に四つもありますからね。

これは、地域からのボランティア募集に参加するのは違います。自分たちから関わり方を考え、北中として地域にアプローチしますから、全校的なうねりを起こさなければなりません。ボランティアに参加すること、北中として地域に貢献する動きを作ること、この二本立てで来年度は取り組みましょう。

三年生がその流れを作ってくれました。一、二年生の皆さんは、それを発展させてください。そうやって、伝統はパワーアップして受け継がれていくのです。

（二月二十二日 記）